

平成 21 年 11 月 20 日

## 日本李登輝友の会千葉県支部台東ツアー・台東県への義援金寄贈式出席

日本李登輝友の会千葉県支部 事務局 金光 俊典

日本李登輝友の会では 88 水害義援金として頂いた貴重な「志」を被災地に直接送り届ける事を約束したが、その中で台東県については 11/14-11/17 に台東訪問ツアーを実施した日本李登輝友の会千葉県支部が、日本李登輝友の会本部の名代として 11/15 に台東扶論社(ロータリークラブ)主催で執り行われた台東県への義援金寄贈へ出席し、被災地への義援金寄贈を行った。

台東県への義援金 50 万円は、三重県出身で三十数年前にプユマ族の女性と結婚して台湾に移住したプユマの家交流促進会代表(自称日系プユマ族)である長谷川治氏の紹介により、台東扶論社の陳名正社長の仲介を経て、88 災害で被害を受けた台東県海端郷霧鹿国民小学校に寄付される事になった。

霧鹿国民小学校からは陳順利校長と教務主任 1 名の 2 名が同席、千葉県支部台東ツアー団長の片木裕一・日本李登輝友の会本部事務局次長より義援金目録が手渡された。同小学校からは感謝状が進呈され、「大変感謝する。学校の復旧に有効活用させて頂く」と謝意が伝えられた。

11/14 の夕方、松山空港にて「屏東県と高砂義勇隊記念碑訪問団ツアー」を終えた片木次長、楨田晃典・日本李登輝千葉県支部幹事に、当日日本を発った清水哲・日本李登輝友の会千葉県支部副支部長と不肖金光が合流した。

なお、このツアーには台湾在住の早川友久・日本李登輝友の会理事、そして台湾人で、過去に日本李登輝友の会千葉県支部と李登輝学校校友会の講演会で夫々 2008 年と 2005 年に講師をつとめられた楊應吟氏・素秋氏兄妹が、台日友好促進会として同行する事となった。

一行 7 人は台東空港に到着後、台東扶論社の陳明正社長、1972-73 年度に同社の社長を歴任され、今回の対日交渉の窓口となった王諒成・扶論家庭委員会主委、プユマの家交流促進会の長谷川治代表及びその家族親戚から、熱烈歓迎を受けた。特に長谷川代表をはじめとするプユマ族関係者は民族衣装の正装を着用し、到着した一行の一人一人に花束の冠を被せて長旅をねぎらう言葉をかけていた。

空港で記念撮影をした後に長谷川代表宅でプユマ族の歓迎晩餐会として原住民に伝わるアバイ、粟酒、台東の新鮮な刺身などをご馳走になった。

プユマ族の頭目だけでなく、ルカイ族の王さんなども招かれて楽しい雰囲気の中原住民との交流を行ったが、乾杯についてはさすがに鍛えていない日本側の面子はかなり来ている。

宴が盛り上がるに連れてプユマ族の民族舞踊が始まった。繊細ながらも色鮮やかな刺繍のあるプユマ族の民族衣装を身につけた女性たちがお祭りや結婚式など、特別な事がある時にのみ踊る民族舞踊を披露した。サービス精神旺盛か、友の会ツアーの一行も酔いが回った状態で練習として参加、一同はステップに戸惑いながらも一生懸命踊っていたが、どうも様になっていないらしく爆笑を誘っていた。

長谷川代表宅は台東市内から車で15分ほどの標高160mの高台にあり、夜は夜景、昼間は広々とした台東平野が見渡せる。庭は広く、また、自家栽培の野菜や果物が取れ、東京のワンルームマンションに暮らしている筆者にとっては全く別世界のようだ。台東は台北に比べて湿度が低く、夜空も綺麗に見える。

翌日、朝食は自家製のパンに自家製ジャム、フルーツ、そして長谷川代表が丹精こめて育てているコーヒーの朝食を頂いた。農薬ゼロの有機栽培で、特にポンカン、パパイヤ、ドラゴンフルーツなどは美味、そして何と言っても自慢は自家栽培のコーヒーです。このコーヒーを飲むと衝撃、やや薄めの味かも知れないが、砂糖もミルクもいないぐらい「コーヒーはこんなに甘いのか」と感じる味です。

台東では日本統治時代にコーヒー栽培が試みられたが、やがて終戦、その後は全く忘れ去られていたが、長谷川代表をはじめとして当時のコーヒーを再現しようと言う努力の賜物です。

11/16は午前11:00からが義援金寄贈式で少し時間があるので、一行は長谷川代表所有の農園でコーヒー豆の収穫を手伝うこととした。農園まで長谷川代表宅から車で15分程度、山道を軽トラの荷台に乗って向かう事となる。途中野良犬がトラックめがけて追いかけて来たり、ヘアピンカーブの連続区間を右に左に・・・と、とにかくスリルのある工程であるが、なにやら非常に懐かしい気持ちになる。

農園ではザボンなどの大きな柑橘類や愛玉などがゴロゴロ実っている。コーヒー豆は斜

面に植えられて、赤からワインレッドのナンテン状の実を摘む。「今日飲ませて頂いたコーヒー分ぐらいは収穫しよう」と言って約 15 分、斜面での仕事なので意外と体力を使い、結構汗が出る。

「そろそろ時間です」と言う事でコーヒー豆収穫を終えて一同はスーツ姿に着替えて台東市内に出かける。東霸王餐廳と言う海鮮レストランで寄贈式が執り行われる。台東扶輪社からは陳明正社長以下 10 名、そして来賓として長谷川代表夫妻、霧鹿国民小学校の陳順利校長、游玄光教務主任が参列した。

最初に台東扶輪社の陳社長の挨拶があった。

「この度の日本李登輝友の会の義援金は大変有意義です。李登輝元総統は我々が最も尊敬する最高指導者であり、その団体からの寄贈である事に加え、李登輝元総統を尊敬する台湾人は高齢者が多い中、日本の会で若い方がこうして多く集まられていることは驚きです。そしてこの義援金は霧鹿国民小学校の復旧に友好活用させて頂きたい」と謝意を述べた。

実は台湾扶輪社は日本の伊勢南と十和田のロータリークラブと友好関係にあり、88 水害義援金については日本側の代表を集めて寄贈式を執り行い、義援金の配分を決めた後に、道路が寸断されてナカナカ事態の把握が出来なかった霧鹿国民小学校が救済申し出をしてきて頭を抱えてきた所に日本李登輝友の会側の義捐金寄贈の申し出があつて非常に助かったという話が披露された。寄付額の 50 万円は同学校の復旧にも適した額だったとの事。

一方、日本李登輝友の会側もこれまでは台東県・台東市ともに公式訪問の実績も無く、繋がりが薄かった。また、台湾李登輝之友会も新体制が発表される前に、元々千葉県支部で台東ツアーの予定が会った事、そして李登輝友の会側の事情を察して、筆者が長谷川代表に相談した所、「台湾扶輪社を通じる事が一番いい」と言うアドバイスを頂いて今回の寄贈式となった。

日本側の代表である、片木次長は川村純彦・日本李登輝友の会千葉県支部長起草の挨拶文代読の中で、被災地への被災地へのお見舞いの言葉、台東扶輪社関係者への感謝と共に、台東や長谷川代表とのコネクションについても紹介した。

筆者と長谷川代表はインターネットを通じて知り合った。

長谷川代表曰く「台東訪問の日本人は 1 2 0 万人の訪台者の中で 1 %程度が台東を訪れていますがその大部分は空港～日系ホテルの往復だけで本当の台東（豊かな人情の原住民文

化) を体験する人は殆どいないという現状から六族の原住民が共存している台東の豊かな自然、人情、海の幸、山の幸をもっと多くの日本人に体験して頂きたい、その為に台東のアピールには労を惜しまない」との事で、その理念に共感を覚えた筆者は千葉県支部のブログ「千葉発日台共栄」で台東のアピールを約束、今年5月に台東訪問、そして7月の友の会本部主催の九イ分・金瓜石ツアーの老台北こと蔡先生の晩餐会に長谷川代表夫妻を招待、そこで「李登輝友の会千葉県支部は秋口に台東を必ず訪問をして台東の魅力を日本に伝える」と約束した。何が幸いするかわからない。インターネットは問題点もあるが、一方でこういう貴重なご縁をもたらせることも付け加えたい。

88 水害については大変残念で被災者には心からお見舞いを申し上げるが、こうして台東と日本の距離が縮まったことも事実である。

今回の義援金寄贈先となる霧鹿国民小学校の陳校長からは「是非とも訪れてください」とお誘いを受けた。陳校長は今年44歳、4月に現在の学校に転勤となり赴任、一生懸命職務に邁進されていたが8月に88水害の被害を受けた。しかし、それでも精力的に復興に力を尽くしていた。

お米と駅弁で有名な池上から山中へ、高雄県境の標高800mの場所である。山桜が植えてある小さな小学校であるが、日本からの桜の寄贈先としては適しているのではないかと感じた。こうして日本人と台湾の山中の小学校の生徒や教職員との交流が始まれば非常に有意義である。

非常に和やかな雰囲気の中で宴は終了した。

ツアーの一同は長谷川代表の案内で台東市内、台東旧鉄道駅や立派な野球場を見学した後、司馬遷氏の「台湾紀行」にも登場するプユマ族の最年長者で今年94歳の大野さん宅をご案内いただき、お邪魔した。

大野さん宅は生前の大野さんのご主人のコレクションを展示する「大野原住民芸館」となっている。当時の原住民の生活や風俗を知る上で貴重な資料が多数展示されていた。

大野さん宅を引き上げた後に台東空港に、この日にツアーに飛び入り参加した、千葉発日台共栄ブログファンの台湾人女性を迎えに行き、長谷川代表宅の隣村である梨嘉村にある原住民レストランで食事をした。

この日はたまたま結婚式があり、爆竹には面食らいながらも大いに賑やかな宴となっていた。宴会のカラオケにも日本側の当ツアーにもお呼びがかかって歌を歌ったり、踊りに参

加したりと、原住民との交流と言うテーマそのままを実践した旅となった。

翌日は温泉旅館が倒壊した知本温泉や、道路が未だ寸断されていたり、流木が多数漂着している太麻里海岸を見学、改めて 88 台風の威力を肌で感じると共に、復興の為に日本人は台湾に色々と協力するべきことはあるのではないかと感じた。

台東市内で長谷川代表夫妻により昼食をご馳走になった後に台東駅始発の花連まわりの自強号で台北に向かい、公式ツアーは終了した。

インターネットがきっかけに知り合い、そして台東と言う台湾の原風景とも言われる親日感情が強く自然も豊か、気候も穏やかな台東を訪問する機会を得た事は非常に意義深かったと感じている。

政治的に原住民は国民党寄りなどと言われているが、そういう事を抜きにして心と心の交流が大事と感じている。

今回の小学校への義援金寄贈についても、決して親日台湾人を作ることが主目的ではないが、地道な活動の結果、日本に親近感を持つ台湾人が出来る事は大変重要であると思う。

筆者は常々「(NHK 問題に於いて日本国内で精力的な抗議活動は大いに結構であり一生懸命にすべきであるが、一方で)、NHK によって反日と誤解された台湾人について、本当は親日である、と言う認識を日本人に持っていただき、一方台湾側からも親日である、と言う事を是非とも発信して欲しい、それも政治スタンスを抜きにして」と言ってきた。

それを少しでも実践できた事は、多くの方の支援ご協力、そして日本李登輝友の会本部のご理解があつての事だと心から感謝したい。

これからも「民間の目線」で台湾との交流を深めていきたい。そして本当に実現するなら霧鹿国民小学校の桜を見学したいものである。

また、今回の台東訪問記録については近日中に数回に分けて弊ブログ「千葉発日台共栄」<http://blogs.yahoo.co.jp/chibanittai>にて順次記事にしていくので請うご期待を。